



男と女のいきいきコラム

男女共同参画社会の実現を目指して

VOL.74



「生涯社会参画人口」が増えること

皆さん、土岐市の人口が何人かご存じですか。今年の6月末現在で、市の人口は6万2559人でした。毎月15日号の本紙には、前月末の人口と世帯数などの「人口の動き」が掲載されています（市のホームページにも毎月の人口・世帯数などが掲載されています）。

昨年10月、内閣府が全国20歳以上の5千人を対象に「男女共同参画社会に関する世論調査」を実施しました。その中に「結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はないか」という問いがありました。その結果は「賛成」42・8%、「反対」52・9%、「分らない」4・3%でした。

さらに詳しく見ると、出産・子育てにかかわることが多いと思われる、女性の20歳代から40歳代、男性の20歳代と30歳代が「結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」と考える割合が高く、対照的に、高齢人口に当たる女性の70歳以上、男性の60歳代と70歳以上が「反対」と考えている割合が高いことが明らかになっています。

土岐市の人口構成の内訳は、15歳未満が12・7%、65歳以上が26・2%、15歳以上65歳未満が61・1%となっていて、市民の4人に1人は65歳以上です。統計では、65歳以上を高齢人口としていますが、60歳代の方を「高齢」とすることに違和感を覚える方も多いのではないのでしょうか。

子育てを若い世代だけをするのではなく、すべての世代が参画するようになれば、今は「結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」と考える若い世代も「結婚したら子どもを持つても良い。もしくは持つても良いかもしれない」と思うようになるかもしれません。

元気な高齢者世代が子育てなどを応援し、進んで社会に参画していただければ、「高齢人口」という言葉を「生涯社会参画人口」と言い換えられるかもしれませんね。



しょうぼう119



住宅火災から大切な生命を守るために、
住宅用火災警報器を設置してください

消防本部・☎0123

つなげよう『救命のリレー』

皆さんは『救命のリレー』という言葉をご存じですか？

以前、このような救急要請が消防署にありました。お子さんが食べ物をのどに詰まらせ、意識状態が悪くなっているということです。救急隊が駆け付けたところ、幸いにもお子さんの意識状態は良くなっていました。ではなぜ、救急隊が到着する前に、お子さんの状態が良くなったのでしょうか？

実は、このお子さんの家族は、救急講習を受講したことがあり、そこで学んだ異物をのどに詰まらせて窒息した場合の対処方法を思い出し、救急隊が到着するまでに異物除去の応急手当てをしていたのです。

今回のケースでは、家族による119番通報⇒応急手当て⇒救急隊による搬送⇒病院での医療処置と、『救

命のリレー』をすることで、お子さんを助けることができました。もし、救急隊が到着する前の応急手当てがなければ、心肺停止という最悪の事態となっていたかもしれません。

われわれ救急隊が到着するまでの時間を『空白の時間』にしないよう、皆さんにも応急手当てを身に付けていただき、『救命のリレー』であなたの大切な人の命を守りましょう。



▲救命のリレー

消防本部では救急講習を随時実施しています。詳しくは、各消防署救急係まで問い合わせください。
▷北消防署(☎0119) ▷南消防署(☎0119)